新型コロナウィルス感染拡大注意！再度，「手洗い」「マスク着用」「三密注意」を心がけよう。

玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 30
R2・12・7

学校から地域社会への発信！

三年生 行方市シティプロモーション中間発表会

十一月三十日、三学年が総合的な学習の時間に「行方市シティプロモーション中間発表会」を開きました。「行方市シティプロモーション」とは、行方市が行方（なめがた）の魅力を市内外の人に知ってもらい『ひと・物・資金・情報』などの地域資源を活用し、地域再生、観光振興、住民協働などに取り組むための活動です。その柱としては①「行方ブランド」の構築とその普及促進、②「行方」の魅力を醸成・発信、③地域経済活性化の三つです。

この活動に参加し、様々な提案をしてきました。

今年も三年生が総合的な学習の時間に、行方市の魅力やこれからについての調査をしてきました。その中間報告が先日行われました。当日は、行方市役所の方々、元博堂の社員で現在は会社経営でアドバイザーをしている方、JAなめがたしおさいの方をお招きして、各学級から一つずつ中間発表をしてもらいました。

シティプロモーションの提案をする様子

ビックリするようなアイディアがいっぱい

一組からは「帆引き船体験プロジェクト」が発表されました。カラフルな帆引き船を多くの人が体験し、観光客を集め、行方市を知ってもらうという内容でした。

二組からは「行方Food Project」というテーマで、行方の特産品を使ったスイーツをつくって販売し、行方市を知ってもらうという内容でした。特産品を販売するにあたっては、行方市の問題にもなっている「空き家」を再利用して、そこで販売してみてはどうかという提案でした。

三組からは「行方Smile Up! Project」というテーマの発表でした。霞ケ浦や北浦という日本でも有数の湖をもっと注目させたいということで、アトラクションをつくったり、釣り客が使える施設、田植えや稲刈りなどの体験型施設をつくってはどうかという提案でした。

三つの発表とも、どれもなかなか大人の発想でいすばらしいでした。また、一つ一つの発表はもっと時々しかし、大きく元気なく耳を傾けず方のいでいました。

企業の方の話を聞く三年生

授業が変わります 一人に一台タブレット GIGAスクール構想

昨年十二月、文部科学省が打ち出した「GIGAスクール構想」。今年の四月、文部科学大臣は記者会見で、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け、GIGAスクール構想を早期実現するための支援などを積極的に推進すると表明しました。

GIGAスクール構想とは、一言で言うと「児童生徒向けの一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」です。GIGAとはGlobal and Innovation Gateway for Allの略。それに伴い、行方市でも十二月までに、市内小中学校児童生徒全員に対し、タブレットPCが最高学年から順次整備されています。一人一台のタブレットで、これまでの授業がどのように変わるのでしょうか。文部科学省のリーフレットに掲載されていたものを参考に紹介させていただきます。

出典：文部科学省リーフレットより抜粋

編集後記

「学ぶことはたくさんある」

読売新聞の五日の投書欄に次のような投書がありました。

生徒会落選で学び
福岡県・中学生

学校で生徒会の役員改選があり、私は図書委員長に立候補した。これまで学級委員や図書委員の経験があったため、自分が適任だとうぬぼれ、選ばれるだろうと信じて疑わなかった。

しかし、図書委員長になったのは、委員経験のない男子だった。私はショックで泣き続けたが、彼が真面目に取り組んでいる姿を見聞きするうちに、適任だと思うようになった。

これまで私は、自分と比べることで他人を評価し、その人だけをしっかりと見ると、長所に気付くことができるのだ。今回は大切なことを学ぶきっかけだったと思っている。

本校でも生徒会役員選挙があり、たくさんの立候補者が出た。たくさんの人が立候補するのは素晴らしい事だ。でも当選するのは何人かしかいない。多くの人が落選するが、落選しても、その人がダメというこ選しないことでは決してない。立候補することで、立候補しなかった人よりはたくさんのことを学ぶことができる。決してムダなことではない。玉中を良くしようと思う人たちがたくさんでてきてくれることで、もっと玉中は良くなっていくのだ。

（文責：小野口　吉政）